

科目別シラバス

資料3

科目名（時間）	1 職務の理解（6時間）		
到達目標	研修課程全体の構成と各研修科目の相互の関連性の全体像をイメージできるようにする。		
項目名	時間数 (通学)	講義 形式	学習内容
介護職の仕事と働く現場の理解	6.0	講義	介護保険サービス（居宅、施設）、介護保険外サービスについて視聴覚教材（介護職員初任者研修テキスト補助教材DVD「職務の理解」介護労働安定センター発行）を活用し、講義により理解する。 居宅施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容について理解する。居宅、施設の実際のサービス提供現場を具体的にイメージできるようにする。ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・これに係る職種、介護保険外サービスを含めた地域の資源との連携について理解する。
科目名（時間）	2 介護における尊厳の保持・自立支援（10時間）		
到達目標	研修課程全体の構成と各研修科目の相互の関連性の全体像をイメージできるようにする。		
項目名	時間数 (通学)	講義 形式	学習内容
人権と尊厳を支える介護	8.0	講義	介護に携わる専門職として、その技術や知識の土台となる重要な基本理念である「基本的人権」や「個人の尊厳」について理解する。ICF（国際生活機能分類）、QOL（生活の）、ノーマライゼーションの理念と実際、虐待予防・身体拘束禁止、個人の権利を守る制度の概要について学ぶ。
自立に向けた介護	2.0	講義	利用者及びその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違いを学ぶ。

科目別シラバス

資料3

科目名（時間）	3 介護の基本（6時間）		
到達目標	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気付き、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解できる。介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができるようになる。		
項目名	時間数 (通学)	講義 形式	学習内容
介護職の役割、専門性と多職種との連携	2.0	講義	介護環境の特徴、介護の専門性、介護に係る職種と連携について学ぶ。
介護職の職業倫理	2.0	講義	介護職としての社会的責任や姿勢について理解する。
介護職における安全のリスクマネジメント	1.0	講義	介護における安全確保の重要性及び介護事故を予防する万全の対策を講じる必要性について理解する。
介護職の安全	1.0	講義	高齢者介護で日常的に遭遇する感染症の基礎知識、介護職自身が心身ともに健康であることの重要性について学ぶ。

科目別シラバス

資料3

科目名 (時間)	4 介護福祉サービスの理解と医療機関との連携 (10時間)		
到達目標	介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について学ぶ。		
項目名	時間数 (通学)	講義 形式	学習内容
介護保険制度等	6.0	講義	介護保険制度創設の背景と目的・動向。介護保険制度のしくみと基礎的理解。介護保険制度の財源、組織・団体の機能と役割。医療保険制度の概要。年金保険制度の外葉について学ぶ。
医療との連携とリハビリテーション	2.0	講義	高齢者との服薬と留意点。経管栄養、吸引、吸入、浣腸等。健康チェック、訪問介護、リハビリテーション医療の意義と役割。リハビリテーション医療の課程について理解する。
障害者総合支援制度とその他の制度	2.0	講義	障害者自立支援制度創設の理念・背景と目的。制度のしくみと基礎的理解。個人の権利を守る制度の外葉について理解する。
科目名 (時間)	5 介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)		
到達目標	利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考え、相手の心理機能に合わせた配慮ができるようになる。		
項目名	時間数 (通学)	講義 形式	学習内容
介護におけるコミュニケーション	3.0	講義	コミュニケーションの意義と目的。コミュニケーションの手段と技法。利用者・家族への対応の基礎知識。利用者・家族への対応の実際。利用者の状況・状態に応じた対応について学ぶ。
介護におけるチームのコミュニケーション	3.0	講義	記録による情報の共有化。報告・連絡・相談。カンファレンスによるコミュニケーションを促す環境について学ぶ。

科目別シラバス

資料3

科目名 (時間)	6 老化の理解 (6時間)		
到達目標	高齢者に多い加齢・老化に伴う心身の変化、疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気付き、自らが継続的に学習すべき事項を理解する。		
項目名	時間数 (通学)	講義 形式	学習内容
老化に伴うこころとからだの変化と日常	3.0	講義	老年期の発達の特徴を理解し、心身がどのように変化していくかの特徴について理解する。
高齢者と健康	3.0	講義	高齢者の疾病 (老年症候群) と生活上の留意点 (外科系)。高齢者に多い病気と生活上の留意点 (内科系) について学ぶ。
科目名 (時間)	7 認知症の理解 (6時間)		
到達目標	認知症利用者の心理や実際の行動から、介護において認知症を理解することの必要性に気付き、認知症の利用者を介護するときの判断基準となる原則を学ぶ。		
項目名	時間数 (通学)	講義 形式	学習内容
認知症を取り巻く状況 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2.0	講義	認知症ケアの理念。認知症の概念と原因疾患・病態。原因疾患別ケアのポイントと健康管理について学ぶ。
認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 家族への支援	4.0	講義	生活障害、心理・行動の特徴。利用者への対応。家族とのかかわり方について学ぶ。

科目別シラバス

資料 3

科目名 (時間)	8 障害の理解 (4時間)		
到達目標	障害者福祉の基本的な考え方や介護における基本的な考え方を学ぶ。		
項目名	時間数 (通学)	講義 形式	学習内容
障害の基礎的理解 障害の医学的側面の 基礎的知識 家族の心理の理解 かかわり支援の理解	4.0	講義	障害の概念と障害者福祉の基本理念。肢体不自由。内部障害。視覚障害・聴覚障害。音声・言語・咀嚼機能障害。精神障害。統合失調症。躁うつ病等。神経症性障害。アルコール依存症。知的障害。発達障害。ダウン症。高次脳機能障害。家族の心理・かかわり支援について理解し、どのような働きかけが必要かを学ぶ。
科目名 (時間)	9 こころとからだのしくみと生活支援技術 (76時間)		
到達目標	介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的知識を学び、具体的な身体の各部の名称や機能などが列挙できるようになる。利用者にとっての生活の充足を提供し、かつ、不満を感じさせない技術を習得する。「死」に向かう充実と尊厳ある死について考えることができるようになる。		
項目名	時間数 (通学)	講義 形式	学習内容
基礎知識の学習 (10時間)			
介護の基本的な考え方	2.0	講義	介護職は、利用者の状態・状況を把握し、状態・状況に応じた介護を提供するとともに、要介護状態の軽減や予防を考えながら、他職種との連携を考慮して介護を行うことについて学ぶ。
介護に関するこころのしくみの基礎的理解	2.0	講義	学習と記憶に関する基礎知識。感情と意欲に関する基礎知識。自己概念と生きがい。老化や障害を受け入れる適応行動と阻害原因について学ぶ。
介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6.0	講義	健康チェックとバイタルサイン。骨・関節・筋肉に関する基礎知識。中枢神経系と体制神経に関する基礎知識。自律神経と内部器官に関する基礎知識について学ぶ。

生活支援技術の講義・演習（56時間）			
生活と支援技術	4.0	講義	介護をする場合必要な、人の暮らしや生活習慣等生活の基本的領域の配慮について理解し、自立を促し介護予防に貢献するという社会的意義のある生活支援の基礎的知識を学ぶ。
快適な居住環境整備と介護	4.0	講義	快適な住環境に関する基礎知識。介護保険による住宅改修。福祉用具に関する基礎知識について学ぶ。
整容に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.0	講義演習	整容に関する基礎知識。整容の介護におけるその人の習慣や好みを把握して、心身ともに快適に過ごしてもらえる支援技術について学ぶ。
移動に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護	8.0	講義演習	移動・移乗に関する基礎知識。移動・移乗のための用具と活用方法。負担の少ない移動・移乗と支援方法。移動と社会参加の留意点と支援方法について学ぶ。
食事に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護	8.0	講義演習	食事に関する基礎知識。食事環境の整備と用具の活用方法。楽しい食事を阻害する要因と支援方法。食事と社会参加の留意点と支援方法について学ぶ。
入浴、清潔保持に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.0	講義演習	入浴と清潔保持に関する基礎知識。入浴と整容の用具の活用方法。楽しい入浴を阻害する要因と支援方法について学ぶ。
排泄に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護	8.0	講義演習	排泄に関する基礎知識。排泄環境の整備と用具の活用方法。爽快な排泄を阻害する要因と支援方法について学ぶ。
睡眠に関するところとからだのしくみと自立に向けた介護	6.0	講義演習	睡眠環境と用具の活用方法。快い睡眠を阻害する要因と支援方法について学ぶ。
死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	6.0	講義演習	終末期に関する基礎知識。生から死への過程とところの理解。苦痛の少ない死への支援と他職種との連携について学ぶ。事例に基づいた演習で現場に立ち会うための心構えについて理解する。

生活支援技術演習（10時間）			
総合生活支援技術演習	10.0	講義 演習	科学的思考と介護過程に必要な構成要素。利用者の状況を把握するアセスメントをもとにした介護計画の作成、介護の実施、評価という介護過程の関連性について学ぶ。介護事例について、日常介護の支援を行う場合、具体的にどのような介護が必要なのか。また、それはなぜそのような介護が必要なのか、その根拠を考えることを通じて、介護職がどのような判断するべきかについて学ぶ。
科目名（時間）	10 振り返り（6時間）		
到達目標	研修全体を振り返り、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について再確認する。		
項目名	時間数 (通学)	講義 形式	学習内容
振り返り	6.0	講義 演習	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行う。「利用者の生活拠点に共に居る」という意識を持って、その状態における模擬演習を行い、業務における基本的態度を持って介護を行えるように理解を促す。また、今後継続して学ぶべきことを講義・演習を通じて再確認できるよう促す。